

「柏崎の水」

椎谷観音堂の井戸

「椎谷の観音さま」などと呼ばれ親しまれている椎谷観音堂は、真言宗豊山派華蔵院^{はせうざいん}の境外仏堂である。小高い山の上に建てられた椎谷観音堂からは、椎谷の町並みと海岸線、そして遠くに米山を一望することができる。

弘仁2年(811) 椎谷の海に毎晩不思議な光が現れた。村人たちは何の光かと思い、光をめがけて網を下ろしてみると、正観世音菩薩像が引き上げられた。村人たちは大変ありがたく思い、山の上に御堂を建て、その像を本尊として安置した。これが椎谷観音堂の草創と伝えられている。観音堂は寛永元年(1624)に焼失し、現在の建物は明和7年(1770)9月に再建されたものである。観音堂は、建物自体が柏崎市指定の文化財であるとともに、「三十三身仏額」「陰陽の弓と定紋蒔絵弓箱」「鰐口」「絵馬・船絵馬」「頓入沙弥入定窟石段及び鉄鉢」など、多くの市指定文化財を保有している。

椎谷観音は、子授け観音としても信仰されてきた。観音堂の縁起には「佐渡の宿根木に住む丸山治久という人が、子どもが欲しいと椎谷観音に一心に願ったところ、本尊の観音菩薩が治久の子どもとして生まれ変わった。」と記されている。



椎谷観音堂の井戸(中央下)と大ケヤキ
奥に見えるのが観音堂



頓入沙弥の築いた石段から仁王門と椎谷海水浴場を見下ろす

椎谷観音堂の井戸は、境内の大ケヤキの根元付近にある。その昔、子どもを授かりたいとお参りに来た人がこの水を飲んだところ子宝に恵まれ、観音様のご利益と大変喜んだという。

井戸の源泉は観音堂の裏山にあり、その湧き水は庫裏でも様々な用途に使われていた。現在では手水にも利用されている。かつては、近隣の小中学生が遠足で観音堂を訪れると、この井戸水で喉を潤したという。大ケヤキは、800年前の椎谷地図にも記載されており樹齢は約1000年と伝わる。また柏崎市の文化財(天然記念物)にも指定されている。

仁王門から観音堂へ続く道は険しい坂道である。200年以上前、頓入沙弥は参詣者の苦勞を解消するため、18年もの歳月をかけ、ひとり海から石を運び300段の石段を築いた。近年には「灯台入口」バス停留所付近から観音堂すぐ下の駐車場までの道路が開通し、誰もが気軽に観音堂にお参りすることができるようになった。椎谷の観音さまが過去も現在も多くの人の信仰を集めている証といえよう。

参考にした本(すべて郷土資料 ご利用の際はカウンターまでどうぞ)

- 「柏崎市伝説集」柏崎市教育委員会 (388 K#)
- 「椎谷藩史」磯貝文雄 著 椎谷藩史研究会 (224 ｲ)
- 「椎谷観音宝物」柏崎市立図書館後援会 (700 Kﾄ)
- 「ふるさと見てある記」東京電力柏崎刈羽原子力発電所 (292 ㄗ)
- 「柏崎市の文化財」柏崎市教育委員会 (700 K#)
- 「高浜ものがたり」柏崎市立高浜小学校 (224 Kㄗ)